

北山村と筏師

600年以上の歴史を持つ、北山村の筏師。

村に伝わる「北山由緒記」には、慶長元年(1596年)7月、豊臣秀吉が「北山脚師材木所」の朱印状を交付したことや、慶長9年(1605年)には、徳川家康が江戸城本丸を建てた時に、北山村を使ったことが記されている。これらの木材を新宮まで運んだのが、北山村の筏師である。

輸送ルートは、激流の北山川。

当時、北山村から新宮まで木材を輸送するには、「筏流し」の方法以外なかった。北山川の水勢は激しく、両岸には鋭角にむき出す岩肌、荒滝が行く手を阻む。そんな厳しい水路をさばく、高度な技術を身に付けていたのが北山村の筏師たちだった。その勇壮果敢な姿は憧れの的となり、明治時代には村に500名もの筏師が暮らしていたという。

「筏流し」が「観光筏下り」に生まれ変わる。

昭和30年代後半にダムが建設され、残念ながら筏流しは衰退する。高度な技術を誇る「北山村の筏流し」を何とか残せないだろうか…そう願った元筏師や村民の努力により、昭和54年、観光筏下りとして伝統の技が復活!毎年5~9月の期間、観光客を乗せて川下りを行い、村の人口の10倍以上の集客に成功。若い筏師の育成にも積極的に取り組んでいる。

History

年間6千人が訪れる人気体験! 北山川観光筏下り



北山村の伝統産業「筏流し」から生まれ変わった観光筏は、今や北山村の名物アクティビティ。杉の丸太で組んだ筏をつなぎ、全長約30mになった筏の列の上に立ち乗り。熟練の筏師の見事な操縦さばきのもと、激流の中へ挑んでいく体験はここにしかないアドベンチャー!

- 5・6月▶土・日・祝
- 7~9月▶金・土・日・月・火・水・祝
- 定期便 集合時間▶第1便10時20分(受付9時~) / 第2便12時40分(受付11時30分~)
- 受付場所▶観光センター
- 対象▶10歳~75歳までの健康な方
- 料金▶1名 6,000円(小学生は半額)
※8月のみ 1名 7,000円(小学生は3,000円)

※要予約(予約金 大人1名2,000円、子ども1名1,000円) 1週間前よりキャンセル料発生

歩いた後は日帰り温泉へ おくとろ温泉

道の駅「おくとろ」に隣接する日帰り温泉施設。自然に包まれた露天風呂でのんびりくつろげる。21時までオープンしているの、日没とともに闇に包まれてゆくおだやかな環境の中、満天の星を見上げながらの入浴もOK。宿泊施設、レストランを併設。



☎0735-49-2575 和歌山県東牟婁郡北山村下尾井476 圖11時~21時(受付終了20時30分) 囲木 図大人600円、子ども400円

北山村の特産品といえば… じゃばら



ゆずでもない、すだちでもない柑橘・じゃばら。北山村に1本だけ自生していた原木からスタートし、今や村の産業を支えることになったじゃばら栽培。すっぱい味わいがクセになり、美容と健康にもオススメとあって、さまざまな商品を展開中。おみやげにぴったり!

Access

北山村へのアクセス
電車●JR紀勢本線・熊野市駅より北山村村営バス「おくとろ公園」停まで約60分
車●大阪方面より:阪和自動車道・美原JCT→南阪奈道路→大和高田バイパス終点→R169→県道229→不動バイパス→R169
名古屋方面より:
紀勢自動車道・尾鷲北IC→R42→R309



團北山村観光センター

TEL 0735-49-2324

和歌山県東牟婁郡北山村下尾井335

The identity of the village

日本唯一、飛び地の村。

北山村は、約48km²という土地面積で、しかも97%は山林という小さな村。和歌山県に属しているのに、和歌山のどの町村にも隣接せず、三重県と奈良県に囲まれて、不思議な存在感を放っている。これは、明治時代の廃藩置縣の際、村民が和歌山県に加わることを強く望んだから。というのも、数百年に渡って林業で栄えた北山村は、木材集積地の和歌山県新宮市と強い結びつきがあったからだという。土地の歴史が、今も大切に残されている村なのだ。



筏師の道

いかだし



Raftsmen's Trail

Kitayama-Mura
WAKAYAMA

和歌山県指定 無形民俗文化財

筏流しの技術は、「筏を組み技術」と「筏を流す技術」の2つに大別される。伝統的な筏の制作方法は、丸太の両端にメガという穴を開け、ヒノキの「ねじ木」を通して連結させた「メガ組み」と、木材ごとに鋸で打って固定させ「ノタリ」と呼ばれる藤蔓と、ねじ木で連結した「カン組み」の2種類がある。筏を流す技術は、北山川の地形を熟知した筏師が棹と櫂を用いる独自の方法を伝えている。

北山川の筏流しは全国唯一の現行事例であり、その技術は熊野林業の歴史と伝統を今日に伝えている。この「筏流しの技術」が平成29年3月、和歌山県無形民俗文化財に指定された。



かつての面影が残る 「筏師の道」

川を下り、木材を運び終わった筏師が、櫂や棹をかついで歩いて村へ帰っていた山道が「筏師の道」だ。今でも集落や茶屋の跡、吊り橋などが残り、人々が暮らした当時の風景が目に見えてくる。現在、「筏師の道ウォーク」も開催されている。

Raftsmen's Trail